

太田 吉浩議員



Q 白水地区の3小学校、その統合は

A 答申の通り再編する事が望ましい

少子化に加え、震災による人口流失で、子供達の教育環境への速やかな対応が迫られる。合併後も統合を経験していない白水地区の3小学校を今後、どうするのか。

人口動態では、3小

学校の生徒数は2024年度までは概ね170名程で推移するが、既に白水小と両併小では、複式学級対応が始まっている。

こうした流れを受け、

震災前から「南阿蘇村立小中学校適

正規模等審議会」で議論やアンケート、関係者への聞き取り調査等が成

されてきた。その審議会が取りまと

めた答申が今年3月に教育委員会経

由で、村長に提出されている。

その答申では、「複式学級の解消、精神的な

たくましさの育成、教

育環境の充実に配慮した適正規模確保の為に、早急な学校再編が必要」とし、「2022年度までに、白水地区の中心部にある白水小学校に配置するのが望ましい」と結論づけている。

この答申を受けて、①この3カ月、村長はどのような対応をしてきたのか。

②村立小学校の設置者として、村長自身の考えは。結論は出たのか。

3小学校のPTA会長、校長、白水保育所保護者会長が集まって頂き、意見を聞いた。6月には、白水地区の各区分とも意見交換を行った。総論的には異論はなく、統合に前向きな議論が出来た。

②答申による「統合は子供達の教育環境整備を図る為に、2022年度までに現在の白水小に配置し、再編する事が望ましい」との内容は重く受け止めている。私は、答申の通り再編する事が望ましいと考えている。これまでも小学校が担ってきた地域の役割を鑑み、地域の声に耳を傾け、子供達のより良い教育環境づくりを第一に考え、統合を進めたい。

今後は、校区住民とも統合を議題とした集会を開き、統合に対しての不安を取り除く事に努めたい。それを踏まえ、具体的な統合時

期は、9月議会で改めて報告したい。

村長の統合という結論を受け、教育長の思いは。教育委員会として、今後踏まねばならないプロセスは。

私は審議会からの答申を尊重し、再編に向けて全力で取り組んでいきたい。

今後は、7月に区長会、中松小・白水小・両併小の各保護者会で現状を説明する。また、8月までに、各校区で住民説明会を実施する計画だ。それを受け、条件が整えば、9月議会で開

校時期、設置場所を報告したい。その後、議会の同意を得られれば、県教育委員会に報告相談し、準備委員会を立ち上げ、開

校に向けて具体的な議論を進める事になるだろう。

大人の都合で子供達の教育環境を損ねてはならないと考え、村長にはスピード決断を求めた。私も審議会の小

委員会、現場や保護者の声を取りまとめた。統合は必要ないという意見にも、傾聴に値する有意義な意見があった。統合に向けて進みつつも、オープンな議論の中で、多くの理解が得られるよう進めて頂きたい。

委員会で、現場や保護者の声を取りまとめた。統合は必要ないという意見にも、傾聴に値する有意義な意見があった。統合に向けて進みつつも、オープンな議論の中で、多くの理解が得られるよう進めて頂きたい。



村長

①教育委員会から3月16日に答申が進達された。5月に、白水地区

太田議員

村長の統合という結論を受け、教育長の思いは。教育委員会として、今後踏まねばならないプロセスは。

教育長

私は審議会からの答申を尊重し、再編に向けて全力で取り組んでいきたい。

今後は、7月に区長会、中松小・白水小・両併小の各保護者会で現状を説明する。また、8月までに、各校区で住民説明会を実施する計画だ。それを受け、条件が整えば、9月議会で開

校時期、設置場所を報告したい。その後、議会の同意を得られれば、県教育委員会に報告相談し、準備委員会を立ち上げ、開

校に向けて具体的な議論を進める事になるだろう。

大人の都合で子供達の教育環境を損ねてはならないと考え、村長にはスピード決断を求めた。私も審議会の小

委員会、現場や保護者の声を取りまとめた。統合は必要ないという意見にも、傾聴に値する有意義な意見があった。統合に向けて進みつつも、オープンな議論の中で、多くの理解が得られるよう進めて頂きたい。

